

平成30年度学校自己評価システムシート (県立川口青陵高等学校)

目指す学校像	「学舎のルールを大切に」精神を基に、主体的に学び、自立できる生徒を育成し、地域との「協働」に挑戦する学校
--------	--

重点目標	1 学習支援を充実させ、生徒の「学び」を多角的に評価することで、伸びる生徒をさらに伸ばす。 2 基本的な生活習慣の確立から自律心と社会性を身に付けさせ、3年間を見通した進路指導を実現する。 3 学校の情報発信と地域との「協働」を積極的に推進し、社会に貢献できる生徒を育成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (3 月 7 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 7 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ○朝学習にしっかり取り組むことにより、学習意欲が高まり成果が見られた。 ○資格取得に取り組んでいるが、上位級の合格者が増えることよい。 ○教員相互授業観察を実施し、学び合いの回数を増やし、教員の指導力向上に努めた。 【課題】 ○協調学習等のアクティブラーニングに積極的に取り組む。 ○研究授業や教員相互授業観察を実施し、教員研修を推進し指導力向上に努める。	○学習意欲を高め、伸びる生徒をさらに伸ばす。 ○組織的な学習支援体制を充実させることにより、指導力向上を目指す。	①朝学習や補習の実施により基礎学力を高める。 ②資格取得を目指し、「川口青陵アワード」を積極的に広報し、奨励する。(漢字検定、ワープロ検定、英語検定、数学検定等)	①学校評価アンケート「朝学習にしっかり取り組んでいる。」80%以上。 ②「川口青陵アワード」受賞数10%以上。資格取得者数の増加。(3級以上)	伸びる生徒を伸ばす指導が概ね達成。 ①「朝学習にしっかり取り組んでいる。」1年79.6%、2年85.0%、3年66.7%回答。 ②青陵アワード受賞13.4%(昨年15.8%) 漢字検定50名、ワープロ検定111名、情報処理検定39名、英語検定6名、数学検定1名(昨年延べ239名)	B	朝学習を実施して3年目、生徒がしっかり取り組み成果が見られたが、組織的な取組に改善していくことが課題である。 資格取得を奨励したが、青陵アワード受賞者は増加せず。来年度以降も、上位級の合格者が増えるように、資格取得を奨励し、継続して指導していく。 授業公開や研究授業を実施し、授業改善に役立てた。教員相互授業観察を行い、教員の指導力向上に努めた。教科を超えた学び合いの回数を増やし、さらなる指導力向上に取り組む。
2	【現状】 ○3年間を見通した進路行事計画を策定し、生徒の第1希望の進路実現に向けて指導してきた。 ○全職員で生徒指導を行い、生徒が落ち着いた学校生活を送れるようになり、一定の成果が得られた。 ○部活動の加入率70%以上が達成できなかった。 【課題】 ○生徒の進路希望を実現のため、3年間を見通した組織的な取組を実践していくことが必要である。 ○今後も規律を徹底させ、しっかりと学校生活を送れるよう指導していく。 ○学校行事にて生徒の活躍する場面を増やし、主体的に取り組む生徒を育成するとともに、部活動の更なる活性化を目指す。	○3年間を見通した進路指導の充実を図る。 ○基本的な生活習慣を確立させるため、生徒指導の充実を図る。 ○学校行事に主体的に参加させ、部活動の活性化を図る。	①3年間を見通した進路行事計画を実施。 ②ベネッセ基礎力診断テストの全学年実施。 ③長期休業中に講習、補習の実施。 ④多様な進路希望に応じたガイダンス・面接指導の実施。	①進路未決定者数を0に近づける。 ②ベネッセ基礎力診断テストの1・2年で年3回実施。3年で年2回実施。 ③長期休業中に講習を実施。 ④学校評価アンケート「進路指導は充実している。」90%以上。	進路指導の充実がほぼ達成できた。 ①進路未決定者3/25現在1名。 ②全学年で学期ごとに実施。 ③夏季・冬季休業中、進学志望者対象の講習を全学年で実施。 ④「進路指導は充実している。」85.3%回答。	A	3年間を見通した進路行事計画の2年目となり、生徒の第1希望の進路実現に向けて指導してきた。進路未決定者については、今後も継続して指導を行っていく。 情報共有と共通理解を行い、全職員で生徒指導を実施し、落ち着いた環境を整えた。今後も継続して規律を徹底させ、しっかりと学校生活を送れるよう指導していく。 HPで学校行事や部活動大会結果の情報発信を積極的に行い、部活動の加入率75.8%を達成した。生徒会活動と連携し、生徒主体の学校行事を実施できた。学校行事と部活動のさらなる活性化を目指す。
3	【現状】 ○PTA・後援会と連携し、学校行事を運営することができた。今後もPTA・後援会からの意見を受け止め学校運営に活かしていく。 ○地元3校と小高交流事業を実施し生徒の自己存在感を高めることができた。3校から継続実施の依頼があった。 【課題】 ○今後もPTA・後援会と連携して生徒の健全育成を図り、学校運営に活かしていく。 ○小高交流事業等、地域への貢献活動を積極的に推進する。	○PTA・後援会との連携を図る。 ○地域との協働を図るとともに、魅力ある情報発信を行う。	①PTA・後援会からの意見や要望を学校運営に活かし、保護者からの学校満足度を向上させる。 ②PTA・後援会に学校行事の協力を依頼し、役員参加者数を増やし、連携を図る。	①学校評価保護者アンケート「本校に入学してよかった。」(入学満足度)90%以上。 ②PTA・後援会役員の学校行事での参加者数。	PTA・後援会との連携がほぼ達成できた。 ①「本校に入学してよかった。」(入学満足度)91.6%回答。 ②学校行事に延べ279名参加(昨年251)。理事会等の会議に延べ371名参加(昨年328)。	A	PTA・後援会と連携し、学校行事を運営することができ、保護者からの満足度90%以上を達成した。今後も保護者からの意見を受け止め、学校運営に活かしていく。 HPや中学校訪問等で積極的に情報発信を行い、学校説明会等で延べ1984人の参加(昨年+305)があった。小高交流事業・JRC部が交通安全運動に参加・生物部が川口市立科学館行事に参加等により、地域からの信頼が高まった。さらに地域から信頼される学校を目指す。

学校関係者評価
実施日 平成31年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>朝学習や朝読書について、学習時間確保のきっかけとなるので、生徒の取組状況がさらに良くなるよう工夫改善していただきたい。</p> <p>授業以外での生徒の学習時間が少ないことが気になります。授業レベルや授業の進め方に、工夫改善をしていただきたい。</p> <p>資格取得が増えるように、資格取得の機会をもっと増やして欲しい。</p> <p>教員相互の授業観察により、授業改善に取り組んでいるが、プロジェクター等のICT機器を使った授業や、アクティブラーニング等の授業をもっと行って欲しい。</p> <p>進路指導部を中心に青陵ゼミナール等、進学希望者対象の講習を、年間を通して実施していることが、進学実績を上げることにつながっている。継続して、実施していただきたい。</p> <p>地元の企業をもっと見学してもらい、希望者を増やし、地元就職して欲しい。</p> <p>挨拶や言葉使い、服装や頭髪のルールについて、先生方の指導により生徒の規範意識が高まり、しっかりできている。これからも基本的な生活習慣について、しっかり指導して欲しい。</p> <p>生徒が主体的に取り組む、学校行事が盛んになってきた。生徒会を中心にもっと盛んにして欲しい。</p> <p>部活動は人間関係などを学ぶ良い機会である。最新の知識や科学的なトレーニング方法で、先生方が工夫して指導してもらいたい。部活動加入率が上昇し、部活動の活躍を期待したい。</p> <p>PTA・後援会と連携し、学校行事を運営していることが、学校行事を活性化させ、生徒に良い効果として表れている。これからはPTA・後援会と連携し、協力体制をお願いしたい。</p> <p>入試倍率が昨年度より上がっているということは、学校説明会や中学校訪問での説明や、HPでの情報発信がしっかりできていて、青陵高校の情報が伝わっている表れであろう。引き続き情報発信を積極的に行なって欲しい。</p> <p>小高交流事業や部活動のボランティア等の参加により、地域からの評価が良くなっている。地域から信頼される学校として、引き続き行ってもらいたい。</p>